

磐越銀行

拾周年紀念に

内容充實を計る

時節柄當を得た 態度として好評

平町磐越銀行は石城財界空前の混戦を見せた先般休銀騒ぎに際しても、頭取中野甲藏氏の卓越せる手腕と、取引者間に深い信用とを有してゐる結果大した影響をも受けず、七月を以つて目出度く開業十周年を迎へる事に成つたのは財界の爲め喜ぶ可き事だ、故に他會社等の例にすれば當然紀念配當とか、特別賞與などの舉に出づるが普通であるが、中野頭取は深く考ふ處あつて、此の祝ふ可き十周年の紀念に數年來の財界不況による銀行内容の整理を企て、全く前記の舉を廢するのみならず、更に本年度上半期利益金一萬九千七百餘圓中から配當を五分に止め、滞貨償却の莫斷をなすと云ふが、時節柄最も當を得たものとして各方面の賞讃を博してゐる尙開業十周年に際して株主、取引者へ發した中野頭取の挨拶状は左の通りである。

私は磐越銀行の頭取として、本期、即ち第七十七回當行株主總會を開くに當りまして、本行創設の時に願ひて、今昔の感に堪へざるものがあるのであります。本行が、平町に開業をせむとした時は、恰も歐洲戰爭中の、大正七年八月でありまして、諸般の準備、並に本館の新築等を終りまして、本營業の心持を以て營業に着手しましたのは、大正八

年十一月頃であります。爾來順調に營業の繼續をなし來りましたが、大正十二年の關東震災災禍は昨春の「モラトリアム」又は、本春以來の縣下財界の不祥事は決して當行に影響なしとは、言ふを得ませんでした。然し、多數取引者各位の諒解の下に、移轉以來先以て拾周年を無事経過したことは、本行の最も欣幸とする所であり、普通の時でありまして、記念配當、或は、特別賞與

與金等の舉に出するが至當であり、過去十年中即ち開業第二年度の、大正九年より、本邦財界轉落期に遭遇して、來たこと、言は、始終艱苦闘争の間に過去を振り返つたのであります。本行は、他銀行の例に慣ひ、内容の整理を斷行したいと思つて居るのですが、元來、滞貨勘定など、言ふものは、左様にとやすく、決定的に算出出来るものでもありません。素より本行と雖も、私の監督營業共には不敏でありました。然し、不良債も出来たと見なければなりません。只今直ちに、全然不良債であるとは決定出来ませぬ。因て其方針を以て、慎重調査したるの思ひますので、其準備行爲の一として、本半期利益金一萬九千七百餘圓五拾六圓の内、所有株式二種の價格銷却を行ひ、殘金の金額から法定準備金貳千五百圓積立て

まして、株主配當は年五分當に止め、特別積立金の戻入を斷行し、金參萬五千圓の滞貨償却基金を計上し後期繰越金と共に社内保留することに決定いたしましたのです。株主各位には本行の他日の勇躍に備ふるため、陰忍なりと御諒承を願はく、多數預金

者各位は、本行の進退自ら考慮あるものとして、現在以上の御引立御愛顧を將來に希ふ次第であります。十周年に際して一言致しました次第です。宜敷御諒承を御願ひます。昭和三年七月廿九日 中野甲藏謹白

第三校問題に就いて一町民

文化日に月に進む現社會は理想を追い現実に苦闘を續けなければ目的を達する事は出来得ないと思ふ、將來は何事も經濟が伴はねば敗者となる恐れがある。昔は命の遣り取りをする戦争でも大和魂があれば勝者となつたが、今日の戦争は大和魂と金が無ければ勝てない。町村自治政林も經濟上の伴はぬ事業を起す事は町村自治の發達を阻害し町の發展を阻止する恐れがある。明治二十一年町村自治制が施行せられ、茲に四十余年施行二十年前後模範町村と稱された町村の大半は今日甚だ振はぬ町村に陥入つて居る事である。我平町も東北有数の發展地と稱されて居るが町理事者や町民を代表する議員諸氏が經濟上立脚して町政に考慮を拂

はぬに至つては市制を施す所が町財政に缺陷を來たし不振に導くものである。先頃平町が第三小學校敷地を決定するに當り立町裏と南町裏との争があり夫れが爲め町會は小學校の講堂で開會した大正十年の町會の選舉に憲政會側より異議申請があり郡會議事堂を借受けて開會し、昨年は大瀧發電所問題で同所に於て開會された、之れが平町會初まつての三大町會と稱されるを見ても如何に町民に刺戟を與へ大騒ぎを演じたか云ふ事が想像される其結果が立町裏に昭和四年度に十二學級の學校を新築し昭和五年度には南町裏へ十二學級の學校を新築する事に決定して免も角も落着が付いた。聞所に依れば本月五日には立町側の町民側の町諸君が

預金擁護の趣旨で

休銀整理法審議

來議會に提出か

銀行が預金の拂戻しを停止した一日一通り審議終了を見るに至る場合その資金の散逸を防ぎ且つたので近く關係省たる司法當整理の促進を計り以て預金者の局の意見を徴したる上根本的の利益を擁護する趣旨の下に大藏反對がなければ再審議をなした省では新に休銀管理法を制定する後法文の作成をなし議會上提べくかねて金融制度調査準備案の順序となる由なるが同案の員會において種々研究中の處卅骨子なるものは次の如くである

其勢を慰せんが爲め町理事者並に町會議員を招待して新舞子に園遊會を催ふし大地引綱や美人を擁しての招待振りであつたこの事である。全町民は此解決案を衷心より了解し喜んで居るものであらうか、私は小學校解決案と大瀧發電所和解案とは平町の恥辱であり他町村並に社會の恥者より經濟上拙劣極まる解決案と嘲笑を受くるものとの斷言する事を憚らない。現在第一、第二小學校は各三十二學級である第三小學校は平町が南町裏に二十四學級の學校を新築する時は昭和十年迄は何んとか都合して兒童を收容する得ると思ふ。一校の經費は教員給料を控除して約一萬圓弱である、其經費は十二學級でも二十四學級でも一校を組織する以上は大差が無い。假りに十二學級の學校の經費(雜給需用費)を約八千圓として五年間には四萬圓の差に達する、同敷地を双方

一、銀行が預金の拂戻しを中止し、整理案は二ヶ月以内位にこれを作成し大藏大臣の認可を経て整理を實行す。
二、右の管理と同時に整理委員をして整理案の作成に着手せしむ。
三、整理委員及び整理委員は預金拂戻停止後直ちに大藏大臣においてこれを任命す、管理委員の数は二名位とし整理委員は五六名以上十名内外とす

暑 中 御 伺
平製氷株式會社
四倉電氣株式會社
新妻盛
日本火保險株式會社
中野甲藏
四倉銀行
戸田雄章

外科 上田醫院
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店
磐城平(電話九、一三九)

暑 中 御 伺
好問 小田吉次
理髮器具化粧品一式 芳香園油店
仙臺屋靴店
安くて丈夫な靴は 平町搔搔小路

期待された 平魚市場建設

目下株式募集中 配當二割の見込

平町に於ける魚市場は同町内四隣申込む可きであらう。創立事五の鮮魚商及同關係者の共同經營所は當分平製氷會社内に置く營に屬してゐたが、今般其權利由。

目論見書(抜)

一總資本金 拾貳萬圓也
壹株五拾圓貳千四百株
金參萬圓也 第一回拂込金
右ハ設備費約八千圓其他ヲ
以テ流通資金ニ充當ス

收入之部

計參萬六千五百圓也
縣内外委託品口錢其他
支出之部
計貳萬九千八百拾圓也
鮮魚商へ割戻シ、經費一切
差引金壹萬六千九拾圓也

此處分 利益金

以上の有力者であるが、この財界不況時代には、石城七濱の豊漁地を持つ平町として當然無ければならぬ事業であり前途の有望も明かな許りでなく各都市魚市場の好成績に刺戟されて、募集の経過すこぶる良好にて近く滿株締切と成る事である、尙同市場の敷地は平製氷本社に隣接せる大工町空地二百數十坪と決定、現在の三丁目街路の魚市場は同時に引拂ふ事に成るので従來交通上の支障となり、非衛生と問題しされた同市場が影を消す事に成り、平町目抜の場所の美觀上から謂つても當を得た計劃であらう、新市場の今後には、専問家も配當二割は確實さるゝと云つてゐるが、株式希望者は此の

財界獨語

人 麥

永雨で外へも出られん。寝轉んで目をつぶる。

警銀も引續いて休業が行れるが、未だ合同とも單獨開業とも目鼻がつかぬ、小田原評議ばかりでは良い結論は出来まい。勇敢にいつれとも大方針を決し、決死的覺悟で急速に具体的案を公表して、世人の同情に訴へたらう。

休銀同志の合同、それもよからう。又屈辱的な、買収的合併、それもよからう、甘んじて受けよ。極端な預金の切捨及び支拂猶豫に依る單獨開業、それもよからう、躊躇せず、

一金六百圓也 法定積立金
一金四百圓也 準備積立金
一金壹千圓也 役員賞與金
一金六千圓也 配當金
(年二割)
一金貳千六百九拾圓也
後期繰越金

四倉築港 期成同盟會

町民大會を開いて猛運動!

四倉港は警城七濱の第一として、縣下各濱漁獲高の第二位を占めてゐる良漁港であるが、現在の港は十數年前の築港にて、現在は遠洋漁業の發達に依る舟体の擴大にて入港頗る不便にて、普通時にても二艘、荒天の際にはつかに一二艘を繋留し得るにすぎず、従つて漁獲物はほとんど全部他港灣に海上運搬してゐる様な次第で、斯くては同町の死活の問題なりと、同町青年團が案を提出せよ。徒らに美辭美言を羅列せる百の聲明より、實行可能の卒直な聲に、世人の同情と力とは集中されるもんだ。体裁をつくるは、スツ裸になつて赤誠を示したらうだ!

警銀の中野頭取が、七月末發表した開業十週年の挨拶は非常に好評だ。

平魚市場がいよいよ株式組織で完全に新設される事になつて、目下關係の佐藤作平、伊藤彌兵衛氏等が奔走中だ、株の募集も意外に良好で八月下旬には締切の盛況との評判、結構な事だ、事業の有利なるは論外として、これに依つて平町の受ける利益は莫大なものだ、第一非衛生な、不体裁な現在の四丁目の魚市場が移

小玉川水電

工事計劃概要

株式募集發表後各方面の熱狂的歡迎に依り近く滿株となる小玉川水電株式會社の、期待をもつて見られてゐる其工事計劃の概要は左の通りである。

- 一、使用河川名 小玉川
- 二、取入口 石城郡永戸村大字下永井字銅屋場二六五
- 三、發電所 同郡赤村大字高萩字下道一
- 四、使用水量 毎秒時七十立方尺
- 五、有効落差 四百〇四尺
- 六、實効馬力 二千五百一馬力
- 七、發電所設備 二千キロワット
- 八、一ヶ年總電力積算量

事に成つたが、これに依つて受ける直接間接の利益は年額にすると莫大な額に上ると聞く、謂ばこの少なからぬ利益は警銀休業の余慶とも云ふべきで、何が幸ひするか解らんもんだ、然し餘り寝覺めぬいゝ金銭でもあるまいから、何んとか社會を潤はす道に行つたらうだ。

轉される丈けでも有難い。

然し地方に大會社が出来て、多數人が入り込むのはたどひ日用品の買入は他所でも決して悪い事ではなく、同會社と連絡のある製氷場用の石炭は、警城で買入れをする事になるさうだし、重役にも地方の所謂名士等連が加はる筈だから、地方に悪い結果を齎

平館中元 謝恩興行

活動常設平館に於ては例年通り中元謝恩興行として八月申中に普通席金十錢と云ふ破格の入場料を以つて開場してゐるが毎夜満員客止め盛況である。

小玉川發電所の株も盛んに募集中で、一般應募の株数を増加せねばならぬ程の申込殺到ださうだ、一体この會社の創立に預つた人々は、以前社會の誤解から政策的に禍ひされ感情的に迫害されて永い間苦境にあつたものだが、正しい根強い努力は、終に喜びの日と成つて近く迎ひられる事になつたのだ。

正しい努力の報ひとして、地まね奮闘の結果として當然であらう、社會はこの國富開發事業の大成のため力を惜んで

はなるまい。

暑中御伺
小野晋平
小名濱町

暑中御伺
若松美三
野崎滿藏

暑中御伺
古川傳一
鷺清昇
鈴木辰三郎

暑中御伺
日本銀行支店
平銀行

暑中御伺
陽胃 専門
腸胃 専門
皮膚病 専門
院病村松

雌伏陰忍の小田炭礦會社

萩原社長苦衷を語る

一般經濟界の不振に依る各工場で限なく同礦内を視察したが、の閉鎖、操業短縮其他の原因で瓦斯カンテラの光に書き出され需要減少を來たしてゐる一方、た漆黒の炭層が坑道の兩側を美炭價の暴落によつて遠く北海炭事にうづめて豊富な埋藏量を示並に九州炭に壓迫されて極度にめしてゐる、坑内湧水の少ない經營困難を來してゐる常盤各炭同坑は思つたより揚水ポンプの礦は、本年度上半期僅少の特種數も少なく、坑内運炭軌道の完會社を除外して、皆欠損、無配備等、礦區及設備の善良なのに當の止むなきに至つてゐるが御一驚を喫した次第であつた。社多關に漏れず好問村なる小田炭長就任以來打ち續く財界不況に礦株式會社も、多少の欠損を余禍ひされて、晝夜を分かつたね奉儀なくされる事になつた、記者仕的苦悶も何等報ひられずに居は某日同礦事務所を訪れ萩原申八氏の苦衷に満八氏及探炭部山野邊兩氏の案内腔の同情を寄せねばならぬと痛

苦味 滋味

(三) 麥 人生

例年梅雨あけと同時に、烈暑がやつて來て、映しい程明るい世界に成るのに、今年はまだアツたもんだ、來る日も來る日も雨だ、曇天だ、暴風雨だ。こんな七月を送つた記憶はかつてない、太陽の黒点のせいであつても無くてもいい、稲作が良くも悪くても仕方がないが、こればかりは心も微くくし腐り盡してしまふ。

陰惨な石城財界の前途を占なうかの空模様。因循で利己主義な一部富豪階級の底意地の悪さを想せる霖雨、資金難、生活難に脅え戦く無産階級の、捨鉢的怒號のやうな暴風雨。ほんとうに嫌な天候だ、カラット晴れ渡つた、コバル

最近、日本電氣ナントカと云ふ會の幹部と自稱する小林某等が電氣値下運動をするに云つて歩き廻つてゐる。此の連中は、先頃植田で演説會をやつたまゝ、直ぐこんどは四倉に現はれ、こゝでも値下運動をするを稱しながら、何の事もなく引上げて、平で又運動をするのである。

電氣は社會の必需品だからその料金を少しでも安くする運動は結構な事だが、そなたやすく實現するものではない、當人は植田は見込がなまい、四倉では署長さんが仲間に入ったから止めたといふ云つてゐるが、そんな事なら初めからせん方がい。

感した、礦内を出て同礦の背後中根温泉に浴して晝食を採つたが、其席上同氏は「就任以來引續いて炭價の低下及需用の減少、代金回収の緩漫等毎期配當を致し兼ねてゐる事は誠に申し譯けなく汗顏の至りです、何せ以前は夏期でも各製糸工場等の需用で粉炭でさい飛ぶ様に賣れたものが御覽の通り貯炭の山を築いてる様な次第で...少しも景氣が出さなければ決して斯様な事は無いのです、現に關東震災の直後などは僅かの時日に三萬圓以上の、利益をあげた様な次第で、世の景氣不景氣に極度に支配される事業だけに、こうドン底に成ると苦況も一層です、たゞ御覽の如く埋藏炭量は豊富です、ことに昨年未着炭した、新坑

此連中は平で十餘下足の演説會をやつて又近く郡山に進出するのだと聞く、なる程君等の運動とは君等の体力的運動と見える、民衆の目は肥えてゐる。興行的社會運動の笛なんかにおどろ出す人間はなくなつた。

舊労働黨員の演説會が開會ごと検査さきを出した、あの検査は當局として當然せねばならぬ検査で異論の出す可きはずがない、然しあの検査の仕方をもう少し考へたらどうだらう、夕涼みで入混みの本町通りを、ぞろ／＼人だかりして署迄引張つて來るのは感心せん。

一人を數人の警官が、引きづる様に運ぶ光景を見た時、人間通有の、こゝに日本人獨得の可愛想だと思ふ感か沸く、それがたどむ野次馬式同情でも起るは誰れも同一だらう、もし萬萬一、あの人

暑中御伺

- 平町
- 諸橋久太郎
- 諸橋守次
- 諸橋元三郎
- 外店員一同

人々對する同情が動機で彼の諸君が一人でも増へたら、それこそ事だ、それより裏通りを手早くサツサと運行したらどうだらう、至極小さな問題だが考へ可きではあるまいか。

夏期になつて平の撒水自動車も活動の時機になつたが、今の装置ではポンチャリ者の俺などは時々水をこたま浴せられて吃驚仰天する、改良したいものだ。

自動車で頭に浮んだが毎年海水浴の盛りになると平、四倉間の自動車營業者がはげしい競争の結果、やたらに乘客を積み込んでプツ飛ばす様になる、今年も連日の降雨でそんな事も少ない様だが、ソロノ乘客の激しい争奪が見受けられる、年中の書入れには相違ないが營業者各自猛省したらどうだ。

(八月一日記)

株式平銀行

第六十四期決算報告

貸借対照表

資産(借方)

現金預金勘定 三〇、三三、九六〇
有價証券勘定 七三、四〇、〇〇〇
割引手形勘定 一五、七〇、八六〇
貸付金勘定 四、四〇、〇〇〇
貸付有價証券 六、四〇、〇〇〇
他店貸付 二〇、七六、九六〇
他店借入金 二、九四、六四〇
不動産勘定 二、九四、六四〇
株主勘定 七五、〇〇、〇〇〇
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

負債(貸方)

預金勘定 三、〇〇、〇〇〇、〇〇〇
借用金勘定 四〇、〇〇〇、〇〇〇
他店借入 七〇、〇〇〇、〇〇〇
雜勘定 六、三三、〇〇〇、〇〇〇
株主勘定 二、二六、〇〇〇、〇〇〇
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

第七期營業報告書

(昭和參年上半期)

貸借対照表

資産(借方)

未拂込資本金 三、〇〇、〇〇〇、〇〇〇
線路屋内工作物 五、一六、八八〇
機械器具貯藏品及土地建物 六、五、三六、〇〇〇
什器 一五、九〇、〇〇〇
有價証券 六、五、九〇、〇〇〇
受取手形及未収入金 五、〇九、九六〇
發售所勘定 一、二一、四七、二六
變電所勘定 二、四三、三八、八五
預金及現金 二、八〇、〇三、五九
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

負債(貸方)

資本金 五、〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金 二、八、七六、〇〇〇
假受金 三、八七、二二
社債及借入金 一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇
支拂手形及未拂入金 五、四四、八七
未拂配當金 八、五、二六〇
当期利益金 九、七、八三、〇〇〇
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

第七期營業報告書

(昭和三年上半期)

貸借対照表

資産(借方)

未拂込株金 一、二五、〇〇〇、〇〇〇
未拂付金 三、一七、七九〇
共同購入品 二、〇〇〇、〇〇〇
什器 八、六九、三三〇
振替口座 一、八七、〇〇〇
預金 一、八七、〇〇〇
現物 二、〇〇、〇〇〇
製物 一、九七、八四〇
建築金 二、〇〇、〇〇〇
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

負債(貸方)

資本金 一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇
未拂配當金 六、五九、五三〇
別途積立金 一、八〇、〇〇〇
法定積立金 二、八〇、〇〇〇
前期繰越金 二、〇〇、〇〇〇
当期利益金 一、一五、〇〇〇、〇〇〇
合 計 六、三三、〇〇〇、〇〇〇

利益金勘定

一金八萬五千參百拾圓也

當期利益金

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

金貳萬圓也 諸積立金

金貳萬八千貳百圓也 重役賞與金

(年七分五厘強)配當金

金參萬四千百拾圓也 後期繰越金

利益金處分案

一金五千貳百八拾圓五拾六錢

一金四千壹百貳拾九圓八拾八錢

差引金壹千壹百五拾圓八拾八錢

一金貳百八拾圓也 前期繰越金

合計金壹千四百參拾圓八拾九錢

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

金壹百五拾圓 法定積立金

金九百參拾七圓五拾錢 別途積立金

(年五分)株主配當金

金壹百九拾參圓參拾九錢 後期繰越金

株式平銀行

昭和三年六月三十日

專務取締役 山崎與三郎

取締役 木村清治

取締役 堀江正直

取締役 高岡唯一郎

常任監査役 新田善次郎

監査役 吉田禮次郎

植田水電氣株式會社

昭和參年六月參拾日

取締役社長 金成通

取締役 安島重三郎

取締役 白井博之

取締役 高岡唯一郎

取締役 小林威次

取締役 古川傳一

監査役 根本祐太郎

監査役 馬上一誠

追而取締役任期満了ノ處改選ノ結果全員再選就任セリ

小名濱水産株式會社

昭和三年六月卅日

專務取締役 水野政次郎

取締役 佐藤作平

取締役 田中嘉藏

取締役 水野徳次郎

取締役 平野直康

支那人 中野鐵之助

監査役 高木保